

飛鳥地域で見つかったムツスジアシナガゾウムシ

木村 史明

A record of the striped bean weevil *Merus waltoni* from Asuka region, Nara Prefecture, Central Japan

Fumiaki KIMURA

キーワード：ムツスジアシナガゾウムシ, クズ, サツマイモ, 外来種, 飛鳥地域
Key Word: *Merus waltoni*, Kudzu, Sweet potato, non-native species, Asuka region

はじめに

ムツスジアシナガゾウムシ *Merus waltoni* (Bohemian, 1844) は中国, 台湾, フィリピン, ベトナム, タイ, ビルマなどに分布するゾウムシであるが, イギリスの昆虫研究者 ジョージ・ルイス (George Lewis, 1839-1926) が 1870 年代に日本からヨーロッパに持ち帰ったゾウムシ類の標本に基づいて日本国内の分布が報告されている (国内の詳細な地名は不明) (森本, 1983).

しかし, その後日本からこのゾウムシが記録されることはなく, 日本国内の分布は疑問視されていた (森本, 1983).

そのムツスジアシナガゾウムシを 2017 年に奈良県の飛鳥地域で確認し, その後も継続してこの地域で確認しているので報告する.

経緯

2017 年 10 月 10 日に橿原市昆虫館の駐車場の隣のヒラドツツジの植え込みに生えたクズ (マメ科) の蔓で見慣れないゾウムシを見つけた (図 1, 図 2). 体長が 1 cm 近くあり, 灰色の地に黄白色の縦筋がある目立つ種にもかかわらず, 種名が判明しなかったため, 元和歌山県立自然博物館学芸員の的場績先生に写真を送付してお尋ねし, 東南アジアに分布するムツスジアシナガゾウムシの可能性が高い旨の御返事をいただいた.

このことから, 外来種である可能性を考慮して, 10 月 16 日に奈良県病害虫防除所に一報を入れた. その後サツマイモ畑で確認されたこともあり, 奈良県病害虫防除所は 11 月 22 日付でこのゾウムシに関する「特殊報」を出している (奈良県病害虫防除所, 2017).

また, 的場先生には 10 月 18 日に昆虫館にお越しいただき, 発見現場を見ていただくと同時に, 同所にて複数の成虫を採集, 確認していただいた.



図 1 最初に見つかった駐車場の隣の植込み



図 2 クズ上のムツスジアシナガゾウムシ

【クズでの調査】

最初に発見したのがクズであったため、この駐車場隅の植え込みおよび昆虫館周辺に生えている4か所のクズで10月10日から11月24日まで9回、目視およびたたき網を用いて成虫の確認を試みた。その結果、駐車場隅の植え込みでは計60個体の成虫が確認できたのに対し、それ以外のクズでは植え込みから直線距離で50mほどしか離れていない場所にあるものも含め、確認することができなかった。

【サツマイモでの調査】

10月26日に駐車場隅の植え込みに隣接した畑で、約16mの3畝にて栽培され、収穫後放置されたサツマイモ（ヒルガオ科）の蔓で複数のムツスジアシナガゾウムシを確認した（図3、図4）。この場所ではその後11月29日まで9回の調査を行い、計213個体の成虫と3個体の蛹、1個体の幼虫を確認するとともに、サツマイモの蔓からは新成虫が羽化脱出の際に開けられたと思われる直径5mm程の円形の孔を50以上確認した。

60個体の成虫を確認した駐車場隅の植え込みは、このサツマイモ畑に隣接していたことと他のクズでは

確認できなかったことから、この植え込みのクズで見つかったムツスジアシナガゾウムシはこの畑由来の可能性が高いと考えられた。

また、このサツマイモ畑での観察や栽培者への聞き取りを通して、以下のことが確認できた。

- ① ムツスジアシナガゾウムシの成虫はサツマイモの葉や芽などを好んで食害し、被害を受けた芽や葉は萎れたり枯れたりすることがある。
- ② 幼虫はサツマイモの茎の中心部をトンネル状に食害する（図5）。
- ③ 幼虫に食害された茎は多くの場合枯れることはなく、食害部分はわずかに膨れることが多い。
- ④ 成熟した幼虫はそのまま食害した茎の中で蛹になる（図6）。
- ⑤ 羽化した成虫は茎に円形の孔をあけて脱出する。
- ⑥ 幼虫はヒメバチの仲間に寄生されていることがあり、食害された茎の中から寄生蜂の繭が見つかることがある。
- ⑦ 成虫、幼虫ともサツマイモの芋（塊根）への食害は見られなかった。
- ⑧ サツマイモは芋の太り具合が悪くなるなど、芋の収量が以前より減少した。



図3 収穫後の蔓が残されたサツマイモ畑



図5 茎の中の幼虫



図4 サツマイモの若葉を食べる成虫



図6 茎の中の蛹

収穫後のサツマイモの放置蔓は自然状態のクズと比較して蔓全体が観察しやすく、虫体や痕跡が確認しやすいことから、これを利用して10月30日から11月25日にかけて上記のサツマイモ畑を除く周辺の32の畑において、ムツスジアシナゴゾウムシの生息状況を調査した。調査は1つの畑につき1回、収穫後放置された蔓を目視で確認し、茎などに膨らみなどが見られた場合は茎を割って中を確認した。その結果、檀原市内だけでなく桜井市、明日香村にまたがる15の畑で

このゾウムシの生息を確認した。確認できた虫体及び痕跡の総数は成虫72、幼虫8、蛹2、成虫の脱出穴等の痕跡52の134であった(表1)。

調査できたサツマイモ畑はすべて小規模(2~10畝程度)であったが、調査数が少なく、作付面積や品種、収穫時期なども異なっているため、単純な比較はできないが、各地区、町の生存確認畑数や生存確認畑あたりの虫数(痕跡数を含む)の平均は檀原市南山町が高い傾向がみられた(図7)。

表1 地区別生息確認状況

| 地区 | 生息確認畑数 | 調査畑数 | 確認個体総数 (痕跡含む) | 生息畑当たりの平均 個体数(痕跡含む) |
|----------|--------|------|------------------|------------------------|
| 檀原市 南山町 | 7 | 10 | 94 | 13.4 |
| 檀原市 戒外町 | 1 | 6 | 8 | 8 |
| 檀原市 南浦町 | 4 | 6 | 25 | 6.3 |
| 檀原市 木之本町 | 1 | 1 | 3 | 3 |
| 檀原市 上飛驒町 | 0 | 1 | 0 | — |
| 檀原市 下八釣町 | 0 | 2 | 0 | — |
| 檀原市 東池尻町 | 0 | 1 | 0 | — |
| 桜井市 池之内町 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 明日香村 川原 | 0 | 3 | 0 | — |
| 明日香村 小原 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| (計) | 15 | 32 | 134 | |

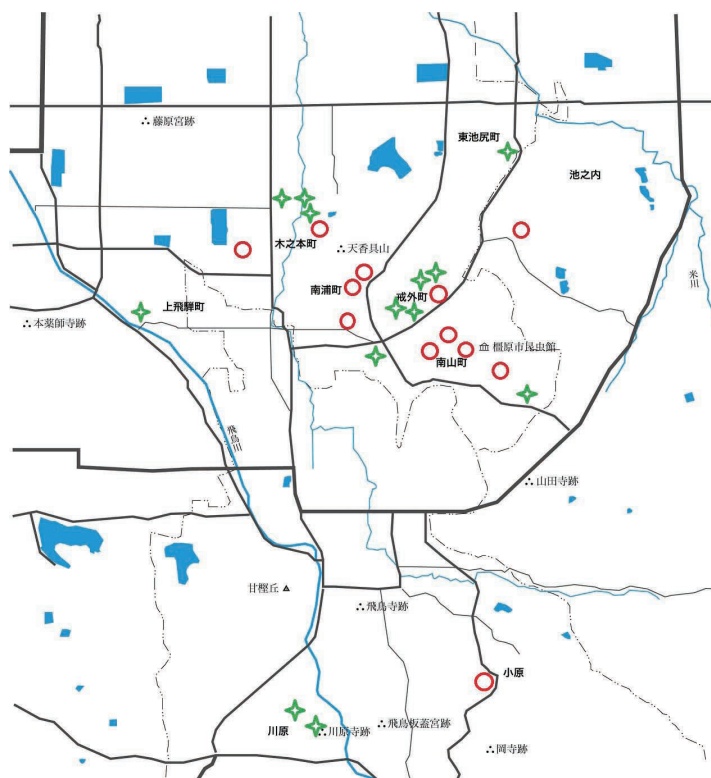


図7 2017年のムツスジアシナゴゾウムシの分布イメージ
(○: 生息確認地点, ☆: 未確認地点)

※ 縮尺の関係で1個のプロットが1枚の畑を表しているわけではない。

【その後の状況】

その後、周辺地域の追加の調査は行えていないが、南山町では2018年～2021年にかけても毎年2017年と同様に成虫が確認されている。

最初に確認した駐車場隅の植え込みのクズでは毎年5月～11月にかけて、成虫を確認しているほか、南山町ではフジ（マメ科）やヨモギ（キク科）を食べる成虫を確認している（図8，図9）。



図8 フジの蔓を食べる成虫



図9 ヨモギの茎を食べる成虫

また、試験的に幼虫が入っていると思われる軽微な膨らみのあるサツマイモの茎を収穫後の放置蔓から切り取って観察したところ、茎が完全に枯れてからでも新成虫が脱出することを確認している。

考察

橿原市昆虫館周辺で確認されたムツジアシナガゾウムシは、この種がジョージ・ルイスの記録以後日本での確認例がないことや、最初に見つかった橿原市南山町でも橿原市昆虫館の開館前から30年にわたって一度も確認されることがなかったことから、最近になって人為的に持ち込まれた外来種の可能性が高いと

思われる。

外来種であるとする、不十分な調査の結果ではあるが、2017年時点では、南山町を中心に直線距離でおおよそ半径2km程度の範囲内で生息が確認されたことや、生息が確認されたサツマイモ畑の数や畑あたりの生息（痕跡を含む）密度は南山町が高かったことから、最初に入ったのはこの地域であった可能性があるのかもしれない。

また、秋季に羽化脱出した新成虫は越冬し、クズなど多種類の植物を利用して世代を繰り返すことができると思われるが、これまでの調査ではサツマイモの茎でのみ幼虫の生育が確認されていることや成虫の確認密度も秋季のサツマイモ畑に大きく偏っていたことから、サツマイモの栽培方法を変えることにより、ムツジアシナガゾウムシの増殖を抑えられる可能性も考えられる。特に収穫後の蔓の放置は多くの新成虫の羽化脱出の温床になると思われ、収穫後の速やかな蔓の処分（焼却等）が重要である（このゾウムシが確認された畑の一例の場合、収穫後焼却まで約一ヶ月間蔓が畑に置かれていた。）。

これまでのところ飛鳥地域以外での情報を得ていないが、今後の分布状況を注意する必要がある。

謝辞

末筆ながらムツジアシナガゾウムシの同定をして頂いた元和歌山県立自然博物館学芸員の的場績先生並びにこの種に関する文献資料を恵与いただき、「特殊報」を出すなどの対応をしていただいた奈良県農業研究開発センターの国本佳範博士、奈良県病害虫防除所の井村岳男氏に厚く御礼申し上げます。

引用及び参考資料

- Kono, H., 1930. LANGRUSSLER AUS DEM JAPONISCHEN REICH. I, INSECTA MATSUMURANA, 4 (3):142-143.
- 松村松年, 1931. ムツジアシナガゾウムシ, 日本昆虫大図鑑, 274. 刀江書院.
- 森本桂, 1983. 日本から記載又は記録されてその後とれないゾウムシ類(1), 北九州の昆虫, 30 (2):73-76.
- Morimoto, K. & Kojima, H., 2007. Taxonomic Notes on the Tribe Mecysolobini (Coleoptera, Curculionidae), with Descriptions of Three New Taxa from Japan. *Elytra, Tokyo*, 35 (1):226-237.
- 奈良県病害虫防除所, 2017. 平成29年度病害虫発生予察特殊報 第2号.
<http://www.jppn.ne.jp/nara/20171122> 特殊報ムツジアシナガゾウムシ. pdf.

- Roelofs,W., 1875. CURCULIONIDES RECUEILLIS
AU JAPON PAR M. G. LEWIS, Annales de la
Société Entomologique de Belgique,19:152-153.
- 赵养昌・陈元清, 1980. 长足象属 *Alcidodes* Marshall,
中国经济昆虫志, 20 鞘翅目 象虫科 :166-170.